

◎景気ウォッチャー調査[2020年3月]

2020年3月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を13.9ポイント下回る16.9となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの影響で非常に景気が悪く、売上は通常の5割程度となっている。」(タクシー運転手)、「春の行楽シーズンを迎えているが、新型コロナウイルスの影響でインバウンド及び団体客が激減している。個人の動きはまだあるが、入園者数は大幅に落ち込んでいる。」(テーマパーク)等の理由から、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を13.1ポイント下回る17.2となった。

企業動向関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「完成車メーカーの大幅生産調整発表を受け、各社の荷動きに急ブレーキが掛かっている。」(鉄鋼業)、「新型コロナウイルスの影響で海外向けの受注が急速に悪化している。」(輸送業)等の理由から、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を14.2ポイント下回る18.9となった。

雇用関連は、「製造業の減産、休業数は増加傾向にあり、求人や派遣契約の更新に影響が出始めている。」(人材派遣会社)、「採用計画を白紙にした自動車関連メーカーや順延する企業も増加しつつある。」(民間職業紹介機関)等の理由から、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を19.1ポイント下回る10.9となった。

	3月	2月	前月差
合計	16.9	30.8	-13.9
家計動向関連	17.2	30.3	-13.1
企業動向関連	18.9	33.1	-14.2
雇用関連 (参考値)	10.9	30.0	-19.1

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を11.0ポイント下回る15.4となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの影響で今後も来客数が減少し、来店した客も不要不急の食料品以外の商材は購入しない状態が続く。」(百貨店)、「感染防止を意識して来店を敬遠する客が増加している。客との接触機会が失われており、今後整備入庫にも影響が出てくる恐れがある。」(乗用車販売店)等の理由から、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を9.6ポイント下回る16.1となった。

企業動向関連は、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「東京オリンピックの延期により建築案件が更に先送りになり、当面鋼材消費の回復は期待できない。」(鉄鋼業)、「新型コロナウイルスの影響で予定物件の発注時期が遅れたり、中止となるリスクが考えられる。」(建設業)等の理由から、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を15.0ポイント下回る14.4となった。

雇用関連は、「良くなる」の回答の割合が減少し、「日米貿易摩擦や原油安などによる世界的な景気減退と新型コロナウイルスの影響でしばらくの間景気の悪化は免れない。」(人材派遣会社)、「新型コロナウイルスが収束に向かわなければ、幅広い業種に影響が及ぶ。」(職業安定所)等の理由から、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を12.5ポイント下回る12.5となった。

	3月	2月	前月差
合計	15.4	26.4	-11.0
家計動向関連	16.1	25.7	-9.6
企業動向関連	14.4	29.4	-15.0
雇用関連 (参考値)	12.5	25.0	-12.5